

C-1-38 誤嚥性肺炎による急性肺障害に対するシベレスタットの効果の検討

横浜市立大学附属市民総合医療センター
高度救命救急センター

下山 哲、岩下 眞之、福山 宏、中村 京太、田原 良雄、天野 静、
松崎 昇一、鈴木 範行、杉山 貢

【はじめに】異物誤嚥はその種類・量により異なるが肺障害が重症化・遷延化し難治性となる場合がある。一方シベレスタットは急性肺障害の新たな治療手段ではあるが効果に一定の見解がない。本稿は異物誤嚥による急性肺障害へのシベレスタット投与の自験例を報告する。

【症例概要】

【症例1】34歳男性。汚水に頭を漬けて意識消失していた。挿管後泥水が吸引された。

【症例2】82歳女性。飲料水の空容器に移されていた界面活性剤を誤飲した。挿管後同液体が吸引された。

【症例3】69歳男性。病的酩酊で農薬（有機リン）を誤飲した。挿管後褐色液体を吸引した。

【症例4】83歳男性。灯油誤飲で来院し挿管後気管チューブより灯油臭を認めた。来院時、P/F比は各々150、132、160、105、APACHE IIは26、19、27、20、SOFAは8、6、11、6で全症例SIRS診断基準を満たした。誤嚥から来院までの時間とシベレスタット投与開始日は各々0.5時間-3日目、1時間-2日目、11時間-1日目、1.5時間-4日目、投与日数は全症例14日間、ステロイドは全例非投与、人工呼吸器日数は各々25、28、16、32日、酸素化改善に要した日数（P/F比で300以上または大気下SpO₂で90%以上を維持されるまで

の日数）は各々30、40、31、15日間で症例1のみ自宅退院したが他は他院にて治療継続した。

【考察】本邦における同様の報告は7例あり、内訳は28~85歳、男性が5例、誤嚥物質は4例が吐物であった。転帰は全例が改善したが詳細は不明である（栗田：人工呼吸20、新谷：広島医学57、芦田：日本集中治療医学会誌、田中：トヨタ医報13、荻野：新薬と臨床52、佐々木：新薬と臨床52、板橋：Progress in Medicine24）。重症化の機序として誤嚥物質の化学的侵襲が肺胞マクロファージを刺激しサイトカインが放出され、これによって活性化され肺胞内に遊走した好中球よりエラスターゼが放出されることで更なる肺障害を来すと考えられる（New Engl J Med 342. 1334）。工藤らのラット誤嚥性肺炎モデル（シベレスタット前投与により肺障害悪化を防いだー麻酔49:724）は早期投与により上述の重症化過程を抑制する可能性を示している。一方自験例での投与開始は最短で誤嚥後約12時間で、酸素化障害の改善に15~40日を要した。よって今後の課題として、シベレスタットの早期投与による酸素化障害遷延化抑制効果について更に検討が必要と考えられた。